

エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

(1) H29 年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催経過

●第 1 回会議

平成 29 年 6 月 19 日（月） 斜里町 （ルシャ現地検討会）

平成 29 年 6 月 20 日（火） 斜里町

○主な議題

<エゾシカ関係>

- ・ H28 シカ年度実行計画実施結果について
- ・ H29 シカ年度実行計画案について
- ・ 植生モニタリングのデータベース化について

<ヒグマ関係>

- ・ 平成 29 年度アクションプランについて
- ・ モニタリング及び調査・研究について
- ・ 知床半島ヒグマ管理計画の普及・啓発について

<共通>

- ・ 長期モニタリング計画の見直しについて
- ・ ルシャ地区の今後の取り扱いについて

○主な内容

エゾシカについては、現在の捕獲圧を継続することについて、モニタリングを踏まえ対策を柔軟に運用すべき等の意見があり、第 3 期期間中は現状の捕獲圧を継続することとした。またルシャの取り扱いについては密度操作等を行わない対照区として当面維持することとした。

ヒグマについては、早急なアクションプランの確定及び未定となっている記載部分についての充実化させるよう意見があり、ヒグマ対策連絡会議において引き続き議論することとした。

○植生指標検討部会

平成 29 年 11 月 10 日（金） 札幌市

○主な議題

- ・ 今年度の植生調査について
- ・ 植生指標の設定・評価について
- ・ 第 2 回 WG での検討内容について
- ・ その他

○主な内容

今年度の植生調査結果等を基に、植生の管理目標の設定に向けた議論を行った。指標種の設定や調査・評価手法については、現在実施している調査結果を確認しつつ検討していくこととした。管理目標については、過去のフロラ情報の充実を図るとともに、群落の回復段階や生態系の機能に着目し、段階的・計画的に検討を進めていくこととした。

●第2回会議

平成29年11月27日（月）～平成29年11月28日（火） 釧路市

○主な議題

<エゾシカ関係>

- ・H29シカ年度冬期事業案について
- ・H29シカ年度植生モニタリング事業結果について（速報）
- ・植生指標について
- ・長期モニタリング計画の見直しについて（エゾシカ関係）

<ヒグマ関係>

- ・平成29年度ヒグマ管理対策状況について（速報）
- ・モニタリング及び調査・研究について
- ・長期モニタリング計画の見直しについて（ヒグマ関係）
- ・平成30年度アクションプランについて

○主な内容

エゾシカについては、本年度事業実施予定について説明を行い、昨年度災害復旧工事実施により一部実施できない捕獲メニューがあるものの、ほぼ前年度並みの捕獲を実施することとした。また、植生指標については、回復段階を踏まえた目標設定や評価手法等の検討について引き続き植生指標検討部会を中心に検討していくこととした。

ヒグマについては、本年度管理概要（出没数、捕獲数）及びアクションプランの進捗状況について報告した。調査・研究について、関係委員より広域へアトラップ調査や糞カウント調査に関する報告があり、今後の実施に向け、関係委員及びヒグマ対策連絡会議においてそれぞれ議論を進めることとした。

長期モニタリングについては、エゾシカ・ヒグマそれぞれ中間総括評価及び今後の方針に関する議論を行い、本WGと科学委員会での分担の整理を含め、次年度引き続き見直しを進めることとした。

（2）H29シカ年度エゾシカ個体数調整事業計画について

A. 遺産地区内（環境省釧路自然環境事務所）

- ・引き続き、今シカ年度においても知床岬、ルサー相泊地区、幌別－岩尾別地区で個体数調整事業を行う。
- ・知床岬では流水期（へり）、海明け後早期（船）の捕獲を実施する。
- ・ルサー相泊地区においては災害後の工事が引き続き行われる見込みであることからSSは休止し、囲いわな及びくくりわなによる冬期捕獲を実施、春期はモニタリングを実施する。
- ・幌別－岩尾別地区では、幌別囲いわな（5年目）及び小型箱わなとし、岩尾別地区仕切柵による待ち伏せ式誘引狙撃による捕獲、岩尾別河口での流し猟式SSを行う。
- ・個体数調整を実施している3地区及びルシャ地区についてエゾシカ増減傾向を把握するための航空機によるカウント調査を実施する。

B. 遺産隣接地域（林野庁北海道森林管理局）

- ・ 囲いわな（ウトロ東、ウトロキャンプ場、弁財崎、オシンコシン崎、マコイ沢、春茹古丹）及び箱わな（春茹古丹、金山川）による捕獲を基本とし、シカ低密度化を図る。
- ・ 可猟区内において銃猟による捕獲を検討している。
- ・ 遺産隣接地域は可猟区又は可猟区に近接している地域であり警戒心の強い個体が対照となるため、誘引に時間をかけるとともに捕獲の効果を高めるため誘因効果が発揮される時期に設定する。
- ・ なお囲いわなで誘引できない個体については箱わなを設置して捕獲効果の向上に努める。

3 今後の予定

（1）H30年度エゾシカ・ヒグマWGの開催予定

- ・ 年2回程度のWGを開催する。第1回WGにおいては、外部有識者に会議出席依頼し知床半島ヒグマ個体数推定に係る調査・研究の進め方について議論を行う。
- ・ 年1回程度植生指標検討部会を開催し、植生の管理目標や指標種の設定、評価手法等に関する検討を行う。

（2）H30年シカ年度実行計画

- ・ エゾシカ・ヒグマWGにおいて科学的な評価及び助言を得ながら実行計画を策定し取り組みを進める。

（2）H30年度知床ヒグマ管理計画アクションプラン

- ・ 3月に開催するヒグマ対策連絡会議で次年度アクションプランの議論を行い、その結果を踏まえ早期に作成する。エゾシカ・ヒグマWGにおいて科学的な評価及び助言を得ながらアクションプランに基づく取り組みを進める。